

教育研究業績概要

氏 名 坂 晋				
研究分野		所属学会等の名称		
衛生化学、環境化学、疫学		日本薬学会、日本衛生学会、日本環境化学会		
担当授業科目名				
基礎薬学演習、疫学、衛生化学、衛生薬学実習Ⅰ、衛生薬学実習Ⅱ、薬学総合演習、薬学特別演習Ⅰ、薬学特別演習Ⅱ、卒業研究、医薬品・食品安全学、環境・薬剤疫学特論、社会環境薬学演習				
教育上の能力に関する事項				
事 項	年	概 要		
1 教育の実践例、教育に関する評価等 授業の工夫	2014-現在	受講生が書き込みしやすいような配布資料を作成している。また、講義中に講義内容に対する理解度を学生が確認するために演習問題を出題している。		
平成 28 年度授業評価改善賞	2017	鈴鹿医療科学大学		
2 作成した教科書、教材、指導書等 鈴鹿医療科学大学薬学部衛生薬学実習書	2010	共著（里見佳子、原田 均、坂 晋 ほか 2 名） 「B-2 脂質の過酸化の測定、食品添加物の定性・定量」（pp20-38）を担当		
図解 薬害・副作用学	2013	共著・南山堂（川西正祐、小野秀樹、坂 晋 ほか 41 名） 「1 章 1 薬害の歴史の変遷」（pp7-20）、「1 章 3 用量関連性・非用量関連性副作用」（pp66-85）を担当		
スタートアップ がん薬物治療	2013	共著・講談社（大井一弥、石川和宏、坂 晋 ほか 6 名） 「第 1 章 がんとは何か（成因と疫学）」（pp1-12）を担当		
図解 薬害・副作用学 第 2 版	2017	共著・南山堂（川西正祐、小野秀樹、坂 晋 ほか 43 名） 「1 章 1 薬害の歴史の変遷」（pp8-21）、「1 章 3 副作用の種類と発症のメカニズム」（pp81-100）を担当		
My 衛生薬学	2017	共著・テコム出版（高橋典子、山崎正博、坂 晋 ほか 16 名） 「第 1 章 1.3 疫学」（pp22-38）を担当		
3 教育実践に関係がある実務経験・委員・講師等 高大連携講師	2009	「受精のしくみー哺乳類から原索動物までー」と題して、三重県立神戸高校で講演した。		
職務上の実績（学術団体や社会等における活動）に関する事項				
事 項	年	概 要		
1 資格、免許、特許、受賞等 薬剤師免許	2003	厚生労働省		
2 学術・社会活動上の・委員・講師・実務経験等				
研究業績等に関する事項				
著書名、報告書名等	単・共著の別	発行年	発行所等の名称	著者名・ページ数等
(著書)				
(報告書等)				
・難分解性フッ素化合物 n-EtFOSE の妊娠期、幼若期における吸入曝露影響の解明	単著	2008	北海道大学	文部科学省・科学研究費補助金 (2006-2007 年度) (若手研究(B)) 研究成果報告書
・出生コホート研究による環境化学物質の次世代影響ならびに遺伝環境交互作用の解明	単著	2010	北海道大学	文部科学省・科学研究費補助金 (2007-2009 年度) (基盤研究(A)) 研究成果報告書
・難分解性フッ素化合物 n-EtFOSE の胎児期、幼若期吸入曝露影響の解明	共著	2010	鈴鹿医療科学大学	文部科学省・科学研究費補助金 (2008-2009 年度) (若手研究(B)) 研究成果報告書
・低濃度農薬曝露の次世代影響：大規模先天異常モニタリ	共著	2011	北海道大学	文部科学省・科学研究費補助金

<p>ングに基づく症例対照研究</p> <p>・包括的評価による有機フッ素化合物 N-EtFOSE の胎児期・幼若期曝露影響の解明</p>	<p>単著</p>	<p>2014</p>	<p>鈴鹿医療科学大学</p>	<p>(2008-2010 年度) (基盤研究(C)) 研究成果報告書 文部科学省・科学研究費補助金 (2011-2013 年度) (若手研究(B)) 研究成果報告書</p>
<p>学術論文 学会発表等の題名</p>	<p>発表者名</p>		<p>発表誌名・巻・ページ・発表年等 学会名・発表年・開催都市名等</p>	
<p>(学術論文)</p> <ul style="list-style-type: none"> Genetic polymorphisms of ESR1 and ESR2 that may influence estrogen activity and the risk of hypospadias Exploiting gene-environment interaction to detect adverse health effects of environmental chemicals on the next generation Adverse birth outcomes associated with maternal smoking and polymorphisms in the N-nitrosamine-metabolizing enzyme genes NQO1 and CYP2E1 Ascidian sperm glycosylphosphatidylinositol-anchored CRISP-like protein as a binding partner for allorecognizable sperm receptor on the vitelline coat Correlations between prenatal exposure to perfluorinated chemicals and reduced fetal growth Prenatal exposure to PCDDs/PCDFs and dioxin-like PCBs in relation to birth weight Genetic polymorphisms of 17 beta-hydroxysteroid dehydrogenase 3 and the risk of hypospadias Genetic association of aromatic hydrocarbon receptor (AHR) and cytochrome P450, family 1, subfamily A, polypeptide 1 (CYP1A1) polymorphisms with dioxin blood concentrations among pregnant Japanese women Dioxin-metabolizing genes in relation to effects of prenatal dioxin levels and reduced birth size: The Hokkaido Study Genetic Risk Factors Associated With Antiemetic Efficacy of Palonosetron, Aprepitant, and Dexamethasone in Japanese Breast Cancer Patients Treated With Anthracycline-based Chemotherapy. シスプラチン投与時の制吐療法におけるパロノセトロンとアプレピタントの効果 妊婦のダイオキシン類代謝酵素遺伝子多型と母体血中ダイオキシン類濃度との関連 アルツハイマー型認知症患者における認知症治療薬と向精神薬の適正使用に関する処方調査 <p>ほか7編</p>	<p>Ban S, Sata F, Kurahashi N ほか5名</p> <p>Kishi R, Sata F, Ban S ほか4名</p> <p>Sasaki S, Sata F, Ban S ほか7名</p> <p>Urayama S, Harada Y, Ban S ほか4名</p> <p>Washino N, Saijo Y, Ban S ほか9名</p> <p>Konishi K, Sasaki S, Ban S ほか8名</p> <p>Sata F, Kurahashi N, Ban S ほか9名</p> <p>Kobayashi S, Sata F, Ban S ほか9名</p> <p>Kobayashi S, Sata F, Ban S ほか7名</p> <p>Yokoyama S, Tamaru S, Ban S ほか16名</p> <p>横山 聡, 藪田ゆみ, 坂 晋 ほか4名</p> <p>小林澄貴, 佐田文宏, 坂 晋 ほか9名</p> <p>中村友喜, 三輪高市, 坂 晋 ほか4名</p>		<p>Hum Reprod 23(6): 1466-1471, 2008</p> <p>Basic Clin Pharmacol Toxicol, 102(2):191-203, 2008</p> <p>Am J Epidemiol, 167(6):719-726, 2008</p> <p>J Biol Chem, 283(31):21725-21733, 2008</p> <p>Environ Health Perspect, 117(4):660-667, 2009</p> <p>Environ Res, 109(7):906-913, 2009</p> <p>J Sex Med, 7(8):2729-2739, 2010</p> <p>Toxicol Lett, 219(3):269-278, 2013</p> <p>Reprod Toxicol, 67:111-116, 2017</p> <p>Clin Breast Cancer, 18(2):e157-e165, 2018</p> <p>薬理と治療, 40: 1073-1078., 2012</p> <p>北海道医学雑誌, 88: 145, 2013</p> <p>日本病院薬剤師会雑誌, 54: 41-46., 2018</p>	
<p>(学会発表等)</p> <ul style="list-style-type: none"> Association between maternal serum concentration of folic acid and infant birth weight: Hokkaido birth cohort study on environment and child health in Japan <p>Effect of prenatal exposure to dioxins on size for gestational age</p>	<p>Yuasa M, Yoshioka E, Ban S ほか6名</p> <p>Konishi K, Sasaki S, Ban S ほか10名</p>		<p>International society for environmental epidemiology & International society of exposure analysis, 2008 joint annual conference, exposure and health in a global environment, 2008 (California, USA), 2008</p> <p>International society for environmental epidemiology & International society of exposure analysis, 2008 joint annual conference, exposure and health in a global environment, 2008 (California, USA), 2008</p>	

<ul style="list-style-type: none"> Relationship between AhR gene polymorphisms and dioxin concentrations in maternal blood- “Hokkaido Study on Environment and Children’s Health Effects of maternal AHR, CYP1A1 and GSTM1 polymorphisms and dioxins on infant birth size 母親の妊娠中の血清葉酸値、喫煙・飲酒習慣と児の出生時の身体サイズ 妊婦初期の母体血清葉酸値と出生時低体重との関連－喫煙習慣および葉酸含有サプリメント摂取の影響－ 胎児期の母親の血清葉酸値及び喫煙、飲酒が乳児の体格に及ぼす影響 前向きコホート研究における先天異常モニタリングとそのリスク要因の解明－環境と子どもの健康に関する北海道 Study (1)－ 喫煙に関する調査票への妊婦の回答の信頼性－環境と子どもの健康に関する北海道 Study (2)－ 「妊婦の葉酸摂取ならびに葉酸代謝酵素 MTHFR 遺伝子多型が児の出生体重に与える影響－環境と子どもの健康に関する北海道 Study (3)－ 胎児発育に及ぼす母の喫煙の影響と NQO1 と MGMT 遺伝子多型との関連 胎児発育に影響を与えるダイオキシン類曝露と遺伝要因との関連－環境と子どもの健康 北海道スタディー 17β-ヒドロキシステロイド脱水素酵素 3 型遺伝子多型と尿道下裂リスク 妊婦の喫煙と血中ダイオキシン類濃度－環境と子どもの健康 北海道スタディ (3)－ 妊娠期における有機フッ素化合物 N-EtFOSE 曝露による胎盤遺伝子への影響 環境と子どもの健康に関する北海道スタディ (4) クメンによる銅イオン依存性 DNA 切断 AhR および AhRR 遺伝子多型と母体血中ダイオキシン類濃度との関連－環境と子どもの健康に関する北海道スタディ 有機フッ素化合物 N-EtFOSE の胎児期曝露による雄胎仔の胎盤遺伝子発現量変化 有機フッ素化合物 N-EtFOSE の胎児期曝露による雌雄における胎盤遺伝子発現量の変化 エストロゲンレセプターの遺伝子多型と尿道下裂との関連 胎児期における有機フッ素化合物 N-EtFOSE 曝露による胎盤遺伝子発現量変化 有機フッ素化合物 N-EtFOSE 胎児期曝露による雌雄胎仔の胎盤遺伝子発現量変化 有機フッ素化合物 N-EtFOSE 幼若期曝露による雄生殖系への影響 雄幼若期ラットにおける有機フッ素化合物 N-EtFOSE 曝露による血清テストステロン濃度変化 有機フッ素化合物 N-EtFOSE によるラット性周期への影響 ダイオキシン類曝露と胎児発育との関連: 遺伝的なリスクについて 	<p>Sasaki S, Kobayashi S, <u>Ban S</u> ほか 14 名</p> <p>Kobayashi S, Miyashita C, <u>Ban S</u> ほか 6 名</p> <p>佐田文宏, 鈴木佳奈, <u>坂 晋</u>ほか 11 名</p> <p>湯浅資之, 東 倫子, <u>坂 晋</u>ほか 4 名</p> <p>佐田文宏, 鈴木佳奈, <u>坂 晋</u>ほか 11 名</p> <p><u>坂 晋</u>, 湯浅資之, 吉岡英治ほか 9 名</p> <p>渡邊亜美, <u>坂 晋</u>, 湯浅資之ほか 4 名</p> <p>Yila Thamar Ayo, <u>坂 晋</u>, 湯浅資之ほか 4 名</p> <p>佐々木成子, <u>坂 晋</u>, 湯浅資之ほか 10 名</p> <p>小林澄貴, 佐々木成子, <u>坂 晋</u>ほか 12 名</p> <p>佐田文宏, 倉橋典絵, <u>坂 晋</u>ほか 7 名</p> <p><u>坂 晋</u>, 佐々木成子, 小西香苗ほか 6 名</p> <p><u>坂 晋</u>, 宮下ちひろ, 岡田恵美子ほか 3 名</p> <p>小西香苗, <u>坂 晋</u>, 佐々木成子ほか 6 名</p> <p>大西志保, 里見佳子, <u>坂 晋</u>ほか 3 名</p> <p>小林澄貴, 佐々木成子, <u>坂 晋</u>ほか 7 名</p> <p><u>坂 晋</u>, 宮下ちひろ, 岡田恵美子ほか 7 名</p> <p><u>坂 晋</u>, 宮下ちひろ, 岡田恵美子ほか 2 名</p> <p><u>坂 晋</u>, 佐田文宏, 倉橋典絵ほか 2 名</p> <p><u>坂 晋</u>, 横山 聡, 松岡道美ほか 5 名</p> <p><u>坂 晋</u>, 松岡道美, 横山 聡 ほか 5 名</p> <p>松岡道美, <u>坂 晋</u>, 黒田 祐ほか 2 名</p> <p><u>坂 晋</u>, 松岡道美, 横山 聡 ほか 6 名</p> <p>黒田 祐, <u>坂 晋</u>, 横山 聡 ほか 2 名</p> <p>小林澄貴, 宮下ちひろ, <u>坂 晋</u></p>	<p>2010 Joint Conference of International Society of Exposure Science & International Society for Environmental Epidemiology 2010 (Seoul, Korea), 2010</p> <p>27th conference of the International Society of Environmental Epidemiology: ISEE 2015 (São Paulo, Brazil), 2015</p> <p>第 18 回日本疫学会学術総会 (東京), 2008</p> <p>第 18 回日本疫学会学術総会 (東京), 2008</p> <p>第 78 回日本衛生学会総会 (熊本), 2008</p> <p>第 78 回日本衛生学会総会 (熊本), 2008</p> <p>第 78 回日本衛生学会総会 (熊本), 2008</p> <p>第 78 回日本衛生学会総会 (熊本), 2008</p> <p>第 19 回日本疫学会学術総会 (金沢), 2009</p> <p>第 19 回日本疫学会学術総会 (金沢), 2009</p> <p>第 79 回日本衛生学会学術総会 (東京), 2009</p> <p>第 80 回日本衛生学会学術総会 (仙台), 2010</p> <p>第 81 回日本衛生学会学術総会 (東京), 2011</p> <p>第 81 回日本衛生学会学術総会 (東京), 2011</p> <p>日本薬学会第 131 年会 (静岡), 2011</p> <p>第 21 回日本疫学会学術総会 (札幌), 2011</p> <p>日本薬学会第 132 年会 (札幌), 2012</p> <p>第 82 回日本衛生学会学術総会 (京都), 2012</p> <p>日本社会薬学会第 31 年会 (鈴鹿), 2012</p> <p>フォーラム 2012 衛生薬学・環境トキシコロジー (愛知), 2012</p> <p>日本薬学会第 133 年会 (横浜), 2013</p> <p>日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2013 (鈴鹿), 2013</p> <p>日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014</p> <p>第 60 回日本薬学会東海支部大会 (鈴鹿), 2014</p> <p>第 85 回日本衛生学会学術総会 (和歌</p>
---	---	---

<p>—北海道スタディー—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビタミン K2 変換酵素 UBIAD1 の発現制御機構の解析 ・アントラサイクリン系薬剤を含む化学療法を受ける乳癌患者に対するアプレピタントとパロノセトロンの有効性 ・アントラサイクリン系抗がん薬によって誘導された悪心が摂食量に及ぼす影響 ・胎児期有機フッ素化合物濃度と出生体重との関連：異物代謝酵素遺伝型の修飾による影響—北海道スタディー ・幼若期パラジクロロベンゼン曝露による性周期への影響 <p style="text-align: right;">ほか 21 編</p>	<p>ほか 6 名 廣田佳久, 中川公恵, 坂 晋ほか 5 名 横山 聡, 田丸 智巳, 坂 晋ほか 15 名 玉木慎也, 渡邊健一, 坂 晋ほか 16 名 小林澄貴, 佐田文宏, 坂 晋ほか 5 名 坂 晋, 浜中麻里奈, 森有里沙 ほか 3 名</p>	<p>山), 2015 第 61 回日本薬学会東海支部大会 (名古屋) 第 26 回日本医療薬学会年会 (京都), 2016 第 25 回日本乳癌学会学術総会 (福岡), 2017 第 29 回日本疫学会学術総会 (東京), 2019 第 90 回日本衛生学会学術総会 (盛岡), 2020</p>
<p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PBDE による脳発達への影響には TH レセプターがかかわっている 	<p>坂 晋</p>	<p>ファルマシア, 47 (9) : 857-858, 2011</p>